

方丈庭園

方丈庭園は方丈の裏手にあり、ベランダから見ることができます。庭園は建長寺初代住職の蘭溪大龍（1213年～1278年）が建立の際に設計したと考えられています。庭園は貴賓を迎える場所であり、その中心には蘸碧池と呼ばれる池があります。池の形は漢字の心に似ていると言われています。

庭園には丘陵地の緑豊かな芝生が広がり、シンプルな配置と落ち着いた雰囲気禅の美学を表現しています。2003年に建長寺創建750年を記念して改修され、国の名勝に指定されています。